



# 京都障害者雇用企業サポートセンター NEWS LETTER

## これからも、企業目線でお手伝いをしたい。 ～ サポートセンター事業推進員の活動の振り返り～

京都障害者雇用企業サポートセンターの平成28年度の活動も残すところあと1ヵ月となりました。昨年12月に発表された障害者雇用状況調査では、京都府の民間企業における実雇用率が2.02%と法定雇用率を上回りました。一方で、いよいよ来年に迫った法定雇用率の見直しに向けて、各企業で対応を進められていると思います。今月のニュースレターでは、サポートセンターの事業推進員が座談会形式でこの一年間の活動を振り返り、今後の課題について意見交換しました。各企業の今後の活動の参考にいただければ幸いです。

■ この1年間を振り返って、いろいろな支援事例があったと思います。特に、企業において障害者雇用の経験が豊富でないケースでは、支援が難しかったのではないのでしょうか？

● そうですね。特に中小企業の場合は、一人の担当者がさまざまな業務役割を担っており、必要性を感じたとしてもプライオリティ的に障害者雇用にまで行き着かないことが課題です。また、働こうとしている障害のある方々の能力イメージがつかめず、任せる仕事がないなどと尻込みされることが多いです。これは中小企業の現実課題ですが、それを理解したうえで、障害者雇用の必要性や思いを伝えて共有化していくことが大切です。そのために、知的障害のある方や精神障害のある方の得意とする業務は何か、一つひとつ実例を話して、必要に応じてセミナーや企業見学会にお連れすることで、理解を深めていただきました。

■ そんな中で、うまく行ったケースを教えてください。

● 電話では消極的だった企業に、実際に訪問して意見交換するうちに積極的になっていただいたときは嬉しいですね。ある企業担当者の言葉ですが、「障害者雇用が大事だとわかっていても、多くの業務を抱える中ではどうしても後回しになる。具体的に進めるためにも、是非、背中を押してください」というものです。その企業は新しい工場をつくるということで、その結果、従業員が100名を超えることから納付金への対応も必要でした。そこで、背中を押す行動の1つ目として、障害のある方の能力イメージをつかんでいただくために、早速、「はあとふるコーナー」の担当者と連携して支援学校の見学にお連れすることにし、聾学校へ見学に行ったのですが、かなり

参考になったようです。その結果、実習を検討されましたので、2つ目の行動として、障害者雇用を積極的に行う企業への見学会を特別に企画し、そこに参加していただけることになりました。近々、その見学会が開催されるので、私も一緒に参加し、そこで直接話を聞こうと思っています。そして3つ目の行動として、企業支援アドバイザーと一緒に新工場の業務計画を確認して、業務の切り出しなどアドバイスをする予定です。



私がやっていることは、障害者雇用における基本ステップを丁寧に進めているだけですが、やはり企業担当者の代わりとなって考え、素直に「背中を押す」支援を実践することが企業に評価されていると思っています。是非、雇用につなげて企業担当者と一緒に喜びたいと思っています。

■ この事例のように、サポートセンターとしては基本的に忠実に、かつ企業の実情に応じた支援をしていきたいですね。他の事例はありませんか？

● 私は、企業と支援機関とのつながりが大切ということと話したいと思います。昨年9月に大丸京都店で支援学校の生徒による「ふれあい・心のステーション」というイベントが開催されました。生徒の実力を知ってもらう良い機会ですので、単なる見学だけではなく、あわせて「企業と支援学校の先生との意見交換会」を企画しました。参加したある企業は、これまで支援学校の卒業生を採用した経験はあったものの、依然、法定雇用率達成へ課題を抱えていました。

ウラ画へ

企業視点でバックアップする専門窓口

## 京都障害者雇用企業サポートセンター

センターの  
ご利用はすべて  
無料

〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町70 京都テルサ東館2階

TEL:075-682-8928 FAX:075-682-8949

【ご利用時間】月曜～土曜日/9時～17時(日・祝・年末年始休み)

<http://www.pref.kyoto.jp/jobpark/sksc.html> 京都障害者雇用企業サポートセンター 検索

意見交換会では、学校説明と質疑応答はもちろん、その後の名刺交換会がものすごく盛り上がりました。先生の思いや企業の現実課題の情報交換など、時間を忘れて意見交換がなされ、企業と学校とのコネクションが図れて具体的な話が進みました。その後、学校から実習の提案がなされて生徒を受け入れていただく機会につながりました。実習は少し内容が難しかったようですが、学校と企業の思いが一致し、もう一度、業務内容に工夫を加えたいと、同じ生徒で実習をすることになっており、是非、雇用に結びついてほしいと願っています。これは、サポートセンターが企業と支援機関との出会いをサポートしたことが実を結んだという事例です。

企業と支援機関の信頼関係を構築することは重要だと思えますが、そのためにはお互いの事情をもっと知る必要があると思えます。昨年10月には、京都障害者高等技術専門校の見学会も実施しましたが（ニュースレター第17号参照）、是非、企業にはこのようなイベントに積極的に参加していただきたいと思えます。

### ■ 実習の大切さについての事例はありますか？

● 実習をすることにより、受け入れる企業の社内風土も変わりつつあるという事例を紹介したいと思います。私が支援しているある企業では、これまで障害者雇用の経験がほとんどありませんでした。まずは事例紹介や、先進事例見学にお連れして基本認識を合わせることができたので、企業支援アドバイザーとともに現場見学に行き、可能な業務を見極めたうえでオフィス清掃の実習を提案しました。幸いにもトップの理解もあることから、人事担当者が役員層も含めた意識調査を事前に行うなどの受け入れ準備を行いました。調査の結果はあまり前向きではなく、担当者としては不安を抱えて実習を開始しましたが、事前のセミナーで学習して作成したわかりやすい作業マニュアルや色分けによる目印の工夫などにより、実習生は順調に清掃業務をこなしてくれました。

私が嬉しかったのはそれだけではありません。これは人事担当者の努力とアイデアの賜物なのですが、実習生が業務経験を積むだけでなく社内の従業員の意識を変えるためにさまざまな仕掛けをされました。たとえば、清掃が済むと「ありがとう」という言葉を積極的に掛けることや、昼食はみんなで食べて日常の話題を楽しく話す

などです。すると、社内風土も変わってきました。受入れに不安を抱いていた職場のメンバーが実習生と仲良くなり、丁寧にコミュニケーションすることの大切さを再認識したのです。さらに、障害者雇用への理解を深めることにとどまらず、一般の社員同士でのコミュニケーションの問題や社内課題の改善にもつながったということです。実習の受け入れが、業務と本人のマッチングだけでなく、企業風土を変えることにもつながるという事例です。

### ■ 最後に、企業にお願いしたいことなどありますか？

● 世の中の動きや他社事例を積極的に知ってほしいと思います。こうした情報を提供するのには私たちの役目でもあるのですが、企業同士がお互いの情報を交換して学習しあうことの大切さを感じています。



昨年、企業に参加を募って「業種・企業規模を問わず勉強・交流する会」を始めましたが、同じような課題で悩んでいる企業が多くあり、企業同士の生の情報を欲しているということが再確認できました。やはり、型どおりに決められたテーマではなく、参加者の共通課題を勉強することの大切さを改めて感じました。みんなですら決めた結果、今年度は精神障害がメインテーマになりましたが、外部の事例研究や参加企業の事例紹介でいつも意見交換の時間が足りないぐらいです。その中でSPIS（ニュースレター第18号参照）という具体的なマネジメントツールとの出会いがあり、それが企業の中で着実に息吹き始めている。今後のサポートセンターの企業支援ツールとしても活かそうであることが嬉しいですね。この勉強会には、できればもっと中小企業が参加して欲しいので、頑張ってます。

■ いろいろな事例紹介がありましたが、サポートセンターは、企業課題に対してワンストップでサービスすることを使命に持つ組織です。これからも企業目線できめ細かく相談にのり、支援をしていきましょう。

企業におかれては、来年に迫った法定雇用率の見直しへの対応など、これからも多くの課題があると思いますが、是非、気軽に私たちに相談をしていただきたいです。今後ともよろしく申し上げます。

## 第14回アビリンピック京都大会が開催されました

アビリンピックは障害のある方々が日ごろ培った技能を競う大会です。職業能力の向上とともに、障害のある方々に対する理解と認識を深め、雇用の促進を図ることを目的として開催しています。昨年10月に山形県で全国大会が行われましたが（ニュースレター第16号参照）、第14回目のアビリンピック京都大会が2月11日（祝・土）に京都高等技術専門校及び京都障害者高等技術専門校にて開催されました。当日、京都府の一部の地域では大雪警報が発令される中、108名の選手が参加され、社会医療法人生長会ベルキッチンの岩崎純平



選手による熱意のこもった選手宣誓の後、12競技で選手がお互いの技能を競いあいました。今回入賞された皆様、惜しくも入賞を逃された皆様も大変すばらしい技術を発揮されており、選手の皆さんの熱い思いが伝わってくる一日でした。最優秀賞を受賞された方は、来年度に行われる全国大会の代表候補選手となります。全国大会は11月に栃木県で開催される予定です。全国大会でもますますのご活躍をされるよう、心より応援しています。

## 編集後記

今月のニュースレターは、少し趣向を変えて気楽に読んでいただけることを意識してみました。いかがでしたでしょうか。サポートセンターの事業推進員は、日々、京都府内を歩き回って企業支援に励んでいます。私たちの思いが少しでも伝わり、企業からの相談が増えれば幸いです。誰もが働く喜びを実感できる希望の京都づくりへ一歩ずつ前進していきましょう。